

英語の主要構文

中村捷・金子義明編

本書は生成文法の枠組みで英語の構文を分析した概論書である。構文と聞くと受験勉強で暗記した文のパターンを思い出す英語学習者もいることであろう。例えば、It seems that John is happy. は John seems to be

happy. と書き換えられるなど。このような知識自体は有益なのだが、生成文法はさらに踏み込んで「でも、なぜ？」という問いに答えようとするものである。

本書は構文の特徴を整理し、基本的分析を提示して、学習者が培ってきた知識の上に、英語の全体像の見通しを与えてくれる。各章10ページで25章からなり、取り上げられている構文は豊富である。第一章の「文法の枠組

み」で X-Bar 理論を理解すれば、二章以降はどの章から読んでもよいであろう。本書の特徴として、二章以降の章の始めに小説や新聞からとった一節があげられており、言語分析が解釈や運用などの実用面で役に立つことを示している点が挙げられる。各章の終わりには基本文献が紹介されており、内容をより深く理解するために役立つ。(鶴田達成)

〔研究社・A5判276頁・本体2800円〕

記号論の逆襲

山口昌男・室井尚編

一九八〇年に流行にのって華々しく旗揚げしたものの、寄り合い所帯の「寄せ集め」(鶴見俊輔)に陥り、ジェンダー・スタディーズ、マイナー・ポリティックスや多文化主義の隆盛にお株を奪われ、惨めに敗退した記

号学。そこに逆襲の可能性はあるのか。

コンピュータのOSよろしく、北米的学問マーケティングがグローバル・スタンダードとなり、効率的な予算措置を得て生まれる、パツケージ・ソフトのような昨今のカルチュラル・スタディーズ。我ながら「とんでもないことだ」と言いながら、日本記号学会の新会長に就任した「若輩者」、室井尚は、世界資本主義に迎合する、そんなカル・スタの知的

退廃を糾弾し、逆襲を誓う。

システマ的情報操作学への嫌悪と、ニーツエ的な創造的カオスへの誘惑を今や懐かしく回顧しつつ、視界ゼロの現状を逆手にとり、制度的学会の解体と個人技の伝播にこそ記号学の逆襲の契機を窺うのは、前会長の山口昌男。署名披露の舞台裏の混沌も露わな「記念事業」論集。(稲賀繁美)

〔東海大学出版会・A5判236頁・本体2400円〕

《物》と《場所》の意味論

「大きい」とはどういうこと?

久島 茂著

議論の端緒は《物》と《場所》である。人間が手に取り利用する《物》と、環境世界として、その中で活動する《場所》には重要な違いがあり、それは言葉にも反映される。例

えば、面積を表す場合、木の葉やハンカチのような《物》では大きいと言い、運動場や町のような《場所》では広いと言う。ある小学1年生の教科書に「ハンカチの広さを比べま

Nakajima, Yui; Nishiyama, Luigi Rizzi, Thomas Roper, Tutomu Sakamoto, Tetsuya Sano, Bonnie D. Schwartz, Noriaki Yusa

「招待講演」Mark Baker氏（ラトガース大学／Maria Teresa Gasti氏（ミシゴ大学）コック校）

「研究発表募集」①以下の分野を含む広義の言語心理学に関する研究発表。言語理論（音韻論、形態論、統語論、意味論）、言語獲得（第一言語獲得、第二言語獲得）、言語喪失、言語理解（統語解析を含む）、言語産出、言語の脳科学、言語基礎論（言語哲学を含む）。

②発表時間30分、質疑応答15分。③発表言語は英語。④応募締め切りは2002年11月30日（必着）。

*詳細は左記ウェブサイトをご覧ください。

「問合せ」〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所大津田紀雄研究室 TCCP

実行委員会 Tel. 03-5427-1455 E-mail: tcp@otsu.icl.keio.ac.jp Web site: http://www.otsu.icl.keio.ac.jp/tcp/

平成14年度「新村出賞・新村記念財団研究助成金」公募

*

「編集後記」「警戒に接する」ということがある。その意味を身に沁みて感じるのは、往々にしてその方が亡くなった後のような気がする。▼英文学者の高橋康也先生が天国に召された。その葬儀の折に、先生がカトリック信徒でいらしたことを初めて知った。奥様や神父様のお話によると、延命治療を断り、文字通り命を神の御手にゆだねて、最期の日々を過ごされたそう。病室でご家族と一緒に和やかな笑ひも交えて葬儀に使う写真を選び、弔辞をお願いする方を指名なさった。そして、臨終間近の意識が薄れていく中で、治療にあたっていた医師に大きく明瞭な声で「先生、ありがとうございます」と言い、付き添っていた

「新村出賞」2件（各々賞状および副賞百万円）

国語学、言語学およびこれに関連する分野で優秀な研究業績をあげた個人・団体に贈る。原則として平成12年4月1日から平成14年7月31日の間に発表された研究業績が対象（応募または他薦／年齢・国籍不問）。審査資料は、日本語による要約をつけた研究業績（2部）と規定様式による略歴と主たる研究業績目録（各1通）。

「研究助成金」2件（各々60万円）

国語学、言語学およびこれに関連する分野での研究活動で、将来性のある研究者が対象（年齢・国籍不問）。応募書類は、規定の書類に研究の現状や将来の研究計画概要（2部）と、公表した研究業績の抜粋またはコピー（2部）。指導者の推薦状を添付。尚、賞との併願は不可。

「締切」8月末日 「発表」10月 「贈呈」11月

「問合せ」〒003-8156 京都市北区小山中溝町19 財団法人・新村出記念財団 新村出賞選考委員会事務局

（または研究助成金選考委員会事務局） Tel. 075-441-7613

人々を驚かせたという。▼高橋先生の博識多才はつとに知られるところだが、筆者は遺されたその膨大な仕事のごく一端に加わらさせていただいただけである。それでも快活な知性と穏やかな人柄に裏打ちされたお話を、直接うかがうことができる機会に恵まれたのは幸運であったと思う。お話をうかがって辞した後に残った心弾むような知的刺激と暖かさの背後に、強靱でしなやかな信仰があったことが納得させられた。▼メールやファックスなどの通信手段の発達により、編集者が執筆者と顔を合わせなくても仕事が進むようになってきた。それによって失われつつあるものの大きさについて改めて思いをめぐらせた。（後）

言語 9月号 第31巻 第10号

2002年9月1日発行

編集人 言語編集部
発行人 鈴木一行

発行所 株式会社 大修館書店
(101-8466) 東京都千代田区神田錦町3-24
電話 03-3295-6231 (販売部)
03-3294-2356 (編集部)
FAX 03-3295-4774 (編集部)
振替 00190-7-40504

印刷／辻光舎印刷 製本／司製本

【8月号訂正】

48頁リード2行目

規制性 ↓ 規制性

同リード3行目

規制性 ↓ 規制性

【年間予約購読のおすすめ】

年間予約購読をご希望の方は前金にて直接小社にお申し込みください（送料小社負担）。

（年間割引購読料）一万二〇〇円

*増刊号、別冊号発行の際には、そのつどご案内申し上げます。